

## 試験研究成果普及情報

部門	内水面	対象	普及・研究
課題名：モツゴ産卵床の設置条件の把握及び増殖効果の算定			
<p>[要約] 印旛沼でのモツゴ産卵床の設置条件と増殖効果を明らかにした。現在使われている産卵基質（防鳥網、ゴルフネット）ではゴルフネットの増殖効果が高いことが分かった。</p>			
キーワード：モツゴ、産卵床、増殖効果、印旛沼			
実施機関名	主 査	水産総合研究センター内水面水産研究所	
	協力機関	-	
実施期間	2017年度～2022年度		

### [目的及び背景]

印旛沼ではコイ科魚類のモツゴ採捕を目的とした柴漬漁業が営まれている。そこで漁獲されるモツゴは1,000円/kg前後で取引され、その加工品の佃煮は「ぎこの佃煮」と呼ばれ利用されている。

このため、印旛沼ではモツゴには第5種共同漁業権が設定されており、モツゴの産卵床を設置することで増殖行為が行われている。これらの産卵床の実態を把握し増殖に適した場所を明らかにするとともに、増殖効果の算定をした。

### [成果内容]

- 1 印旛沼において実地調査を実施したところ、産卵床は438基設置され、設置場所の状況は産卵床の設置位置が距岸5～200m、基質が防鳥網またはゴルフネット、水深が0.82～2.20m、底質が泥91%、砂泥9%であった。また、その中に設置されている産卵基質は379基が防鳥網、59基がゴルフネットであった。
- 2 産卵床に設置された防鳥網の産着卵数が平均2,851個、ゴルフネットの産着卵数が平均49,886個であった。
- 3 産卵基質に産着した卵をふ化させたところ、防鳥網で33%、ゴルフネットで40%のふ化率となった。
- 4 ふ化した稚魚を5月から11月まで育成したところ平均42%の生残率となった。
- 5 印旛沼に設置されている防鳥網とゴルフネットによる年間の増殖効果は、防鳥網15万尾、ゴルフネットは49万8千尾と試算された（表1）。
- 6 現在使用されている産卵基質ではゴルフネットの増殖効果が高い。その他に竹・塩ビ管にも産着が確認できたことから、新たな材料を使用した増殖手法となる可能性がある（図1）。

[留意事項] なし

[普及対象地域] 千葉県印旛沼流域（印旛沼漁協所属漁業者）

[行政上の措置] なし

[普及状況] なし

[成果の概要]

表 1 増殖効果の試算

	防鳥網	ゴルフネット
産卵数(a)	2,851	49,886
ふ化率(c)	0.33	0.40
生残率(d)	0.42	0.42
産卵床設置数(e)	379	59
増殖効果(尾数)(a*c*d*e=f)	150,000	498,000

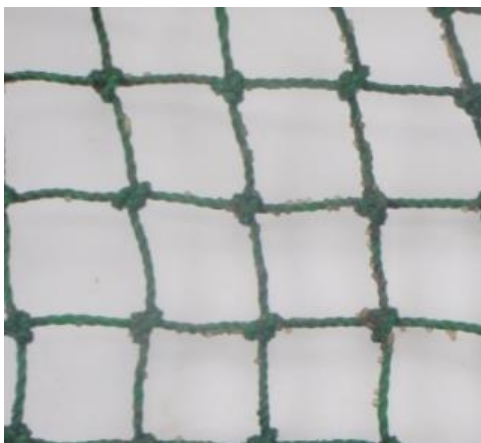


図 1 各基質の産着状況  
(左上：防鳥網、左下：ゴルフネット、右上：竹、右下：塩ビ管)

[発表及び関連文献] なし

[その他] なし